

小特集 ■ ASIAGRAPH 2013 Forum in Hawai'i 報告

2013 年 4 月 25 日から 27 日にハワイ島のヒロで ASIAGRAPH 2013 in Hawai'i が開催されました。ASIAGRAPH はこれまで毎年秋に東京で開催されてきましたが、昨年は展示会だけの開催で論文セッションが延期されたため、今回のハワイでの開催となりました。これまで日中韓を中心に開催されてきた ASIAGRAPH ですが、これを機会にハワイ等の環太平洋地域を含んだ規模のイベントへと拡大していく予定です。ハワイ島の大自然は地球の原点をも感じられる場所であり、今回は文化フォーラムとの共同開催として、マウナケア山頂のすばる望遠鏡やキラウエア火山国立公園の見学等のイベントが盛り込まれました。また今回の会議報告では、東京大学の福嶋昭彦氏による会議報告のレポートの他に、新しい試みとして東京大学の櫻井翔さんによるマンガレポートを取り入れました。見学会等の ASIAGRAPH の活動の様子が、読者の方々により多く伝わることを期待しています。

小木哲朗 (ASIAGRAPH Program co Chairs)

■参加報告

福嶋昭彦 (東京大学)

今回の ASIAGRAPH 2013 Forum in Hawai'i は 2013 年 4 月 25 日から 27 日にかけて、アメリカ合衆国ハワイ州・ハワイ島のヒロにて開催された。ヒロはイミロア天文学センターや日本の国立天文台が設置したすばる望遠鏡があることから、天文学的な見地において世界的な名所である。また、島の大部分がマウナケア・マウナロアといった世界最大の火山から成り、雄大な自然を体験できる地でもある。

本会議の発表件数は口頭発表 23 件であり、それには採択された論文とポスターショートペーパーが含まれる。数は少ないながらも、科学や芸術、技術に関する文理の枠を超えた多様性のある研究発表が行われた。

今回のコンピュータグラフィックスやロボットに関する発表は、人工生命に関する研究や生物の機能および構造に着目した研究など、自然や生物に関連する研究が中心であった。これらの発表は、豊かな自然を持ち、生命感あふれるハワイ島に非常にマッチした内容であった。また、今年は研究分野を問わず、音や聴覚にフォーカスした発表が特に多く見受けられ、現在のトレンドが窺える。着眼点として、仮想現実のための聴覚刺激のフィードバックや、特定の高周波成分が人に与える生理的心的

効果、音響情報を体験するためのタブレットインターフェース、等に着目した研究が披露された。

招待講演は John Andrew Berton 氏によるものであった。同氏は Industrial Light and Magic 社においてビジュアルエフェクトスーパーバイザーとして、Terminator 2 や Men in Black 2 などの著名な作品の制作に携わった経験のある世界的技術者である。John 氏によって、ハリウッドの最前線で培われた数多くのテクニックが披露され、この公演は世界最先端のコンピュータグラフィックス技術に触れるまたとない機会となった。

今回のハワイ大会ではフィールドトリップツアーとして、ハワイ島の各名所を回ることによって現地の自然や文化について学ぶ試みがなされた。その一環であるハワイ火山国立公園の散策では、自身が生物学者でもあるガイドが招かれ、参加者はハワイ島の地質や植生、歴史に関する知識を深めた。マウナケア山頂のすばる望遠鏡の見学は、海拔 4,200 メートル超の過酷な環境下で行われた。参加者は冷たい気温と薄い空気に苦しみながらも、望遠鏡見学を通して、現地の研究者・職員と様々な意見を交わした。2 日目には河口洋一郎氏の CG 作品がイミロア天文学センターのプラネタリウムで上映された。会場には地元の住民も多数駆けつけ、大好評を博した。

来年は ASIAGRAPH 2014 Forum がインドネシアのバリ島にて開催される予定である。今回以上の盛り上がりや多くの発見があることを期待したい。



ASIAGRAPH 2013 Forum での口頭発表の様子



国立公園におけるフィールドトリップの様子

